

# 審判員マニュアル「ゲームコントロール」

審判は試合の演出家 ！

少年が楽しいサッカーを出来るようにゲームコントロールをしましょう。

## 1 演出家

多数の目がゲームの流れとジャッジを見ています。

「俺がこの試合において責任と自信を持って、判定しているのだぞ」と胸を張って、軽やかな走りを。

「開始」「ハーフタイム」「終了」後も笑顔で。

## 2 身だしなみ

選手・保護者はまず審判の身のこなし、服装、態度を見ています。

審判服を着ましょう。胸のワッペンも付けましょう。

力強い開始の笛、良い走り、そこから信頼感は生まれます。

## 3 選手に対する心遣い

「続けなさい」「プレーオン」「離れなさい」「待ちなさい」

「ボールはきちんと静止しよう」などの助言を的確に。すがすがしいゲームを ！

## 4 試合開始前に

試合開始前に主審、副審、第4の審判員が集まりコンセンサスを図りましょう。一体となってゲームの円滑な推進とルールの遂行で、皆から信頼される審判員を目指しましょう。

## ○ 主審

対角線審判 ⇒ プラスアルファ 社会人と少年の使い分けを ！

大きくS字に回り込み、横からプレーを見て判断を

ボールが当る、パスコースをふさぐ。選手は大迷惑。少年はカーブをかけられません。

試合開始時の位置、コーナーキック時の位置、FK時の位置どり、

PK時の位置どり、スローイン時の位置どり。

大人の走力で先を読んで走れば、必ず回り込めます。走りましょう。

## ○ ファウルなのに？

競りあいでの反則、腰から入って相手のバランスを崩す。

⇒ 見逃すな 流すと試合が荒れる。

手を使った反則を的確にジャッジしよう。

## ○ 選手の保護

後方からの危険なトリッピング、プッシング、アフターチャージ。

⇒ 早い段階でデンジャラスプレーは見逃さず、再発を押えよう。

必要な場合は勇気をもってカードを示しましょう。

## ○ 笛のリズム

試合開始時、終了時、ファウルを取った時。

スタートからタイムアップまで同じ笛の調子では？



場面で笛の音色、長〜い笛、短く引き締まった笛、大・小を使い分けよう。  
ファウルの時、笛を吹いたらすぐ方向を指す。説明をしたいのならその後にする。  
選手もベンチも観衆もどちらのボールか知りたいのです。

## ○ 走るリズム

歩く、ジョッグ、ロングダッシュ、バックステップ、サイドステップ、  
そしてペナルティエリア内への走り込みでゴールインの確認を。

## ○ 副審

ボールが イン、アウトラインを割った。シュートが インかアウトか。  
タッチラインを、ゴールラインをまたいで直線的に見る。  
自信を持って判定し、主審にアシストを。  
ゴールラインを駆け抜けるくらいの走りが望ましい。

## ○ ベンチの声

誤審。審判の位置から見えないファウルの見逃し。  
⇒ あってはならない。でもなくすことは出来ません。なくす努力をしましょう。  
ベンチからの度を過ぎた壮絶な野次、しつこい批判に対しては毅然とした対処を。

## ○ 試合が終わったら

振り返りましょう。良かった点は？アンマッチは？アイコンタクトはどうだったか、  
良いゲームでしたか？

次の審判に備えて、こうしたら…などクールに考えてください。  
より高い目標に向かって…。  
経験豊富な上級審判の方、ノウハウを伝授してください。

(参考資料 「審判は公正でなければならない」 東京都サッカー協会少年連盟審判部)

